

**製品名: AMPK ベータ 1 (3Y15) ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe06843**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,FC,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02% 新型保存料 N、50% グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:200-1:1000,ICC/IF 1:200-1:500,FC 1:200-1:1000,IP 1:20-1:50
分子量	30kDa

**抗原情報**

遺伝子名	PRKAB1
別名	5''-AMP-activated protein kinase subunit beta-1; AMP-activated, noncatalytic, beta-1; AMPK; AMPK beta 1 chain; AMPK subunit beta-1; AMPK-BETA-1; AMPKb; HAMPKb; PRKAB1;
遺伝子 ID	5564.0
SwissProt ID	Q9Y478
免疫原	ヒト AMPK ベータ 1 の合成ペプチド

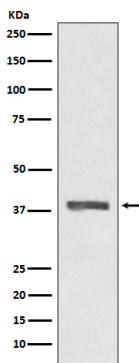
## 背景

AMP 活性化プロテインキナーゼ (AMPK) は、酵母から植物や動物に至るまで高度に保存されており、エネルギー恒常性の調節に重要な役割を果たしています。AMPK は、触媒  $\alpha$  サブユニットと調節  $\beta$  および  $\gamma$  サブユニットから構成されるヘテロ三量体複合体で、各サブユニットは 2 つまたは 3 つの異なる遺伝子 ( $\alpha 1, 2, \beta 1, 2, \gamma 1, 2, 3$ ) によってコードされています。AMP 活性化プロテインキナーゼ (AMPK) の非触媒サブユニットは、細胞のエネルギー代謝の調節に重要な役割を果たすエネルギーセンサー プロテインキナーゼです。細胞内 ATP レベルの減少に応答して、AMPK はエネルギー産生経路を活性化し、エネルギー消費プロセスを阻害します。つまり、タンパク質、炭水化物、脂質の生合成、および細胞の成長と増殖を阻害します。AMPK は、代謝酵素の直接リン酸化を介して作用し、転写制御因子のリン酸化を介してより長期的な効果をもたらします。アクチン細胞骨格のリモデリング (おそらく間接的にミオシンを活性化することによる) によって細胞極性の調節因子としても機能する。 $\beta$  非触媒サブユニットは、 $\alpha$  サブユニット (PRKAA1 または PRKAA2) と  $\gamma$  サブユニット (PRKAG1、PRKAG2、または PRKAG3) を架橋する C 末端を介して、AMPK 複合体が組み立てられる足場として機能する。

## 研究分野

シグナル伝達

## 画像データ



HeLa 細胞溶解物中の AMPK ベータ 1 発現のウェスタン ブロット分析。